



現場の笑顔を、テクノロジーで守り抜く。
**「Bridge3」が架ける、
AI介護DXへの橋。**

現場経験13年のプロが導く。
非エンジニアでも「自社の課題」を解決できる、超実践型AI活用研修。

「AIを導入すれば、すべて解決すると思っていた」… そんな「現場不在のDX」は、 もう終わりにしませんか？

人材不足は深刻さを増し、記録や計画書作成などの事務作業は雪だるま式に増えていく。多くの施設が「何とかしなければ」とシステム導入に踏み切りますが、聞こえてくるのは現場の「悲鳴」ばかりです。



「使い方が難しすぎて、
結局紙に戻ってしまった…」

「記録入力のために
残業が増えた。
本末転倒だ」



「『AI研修』を受けたけど、
現場でどう使えば
いいかわからない」

「補助金が出るから
導入したけど、
誰も使っていない」



なぜ、うまくいかないのか？

それは、システムや研修が
「現場のリアルな業務フロー」から乖離しているからです。
私たちは知っています。
介護現場の1分1秒がいかに貴重か。
スタッフがどれほどの想いで利用者に接しているか。
だからこそ、Bridge3は提案します。

現場経験13年のプロが構築した、 「現場の時間を生み出すための、 超実践型スキル習得」を。

現場を知らない研修は、もういない。 「机上の空論」ではない、 13年の現場経験から生まれた実践メソッド。



Bridge3 代表 / 介護現場運営コンサルタント
芝原 等 (しばはら ひとし)

 特別養護老人ホーム ユニット長 経験

 訪問介護
サービス提供責任者 (サ責) 経験

現場経験 通算13年

「人手不足、記録の山、利用者に寄り添いたいのにな時間が足りないジレンマ…。私自身、その痛みを現場で職というほど味わってきました。だからこそ、Bridge3の研修には難しいIT用語は一切ありません。現場のスタッフが『これなら使える!』と目を輝かせ、翌日から業務が楽になる。そんな、地に足の着いたDX支援をお約束します。」



Point 1：専門用語ゼロの『現場言語』
ITが苦手なベテラン職員さんにも、分かりやすい言葉で直感的にレクチャーします。



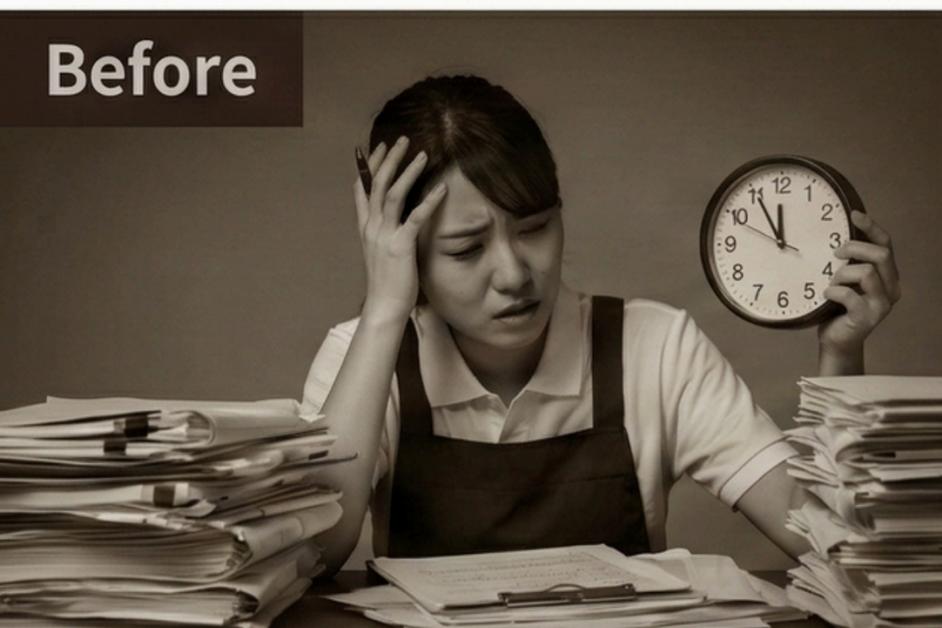
Point 2：『わかる』から『できる』へ
一方的な座学ではなく、自施設の実際の書類を使った演習で、即実践につなげます。



Point 3：経営と現場の『翻訳者』
経営層の『効率化したい』想いと、現場の『負担を減らしたい』想い、両方を理解して構築します。

事務作業という『重り』を外し、 介護本来の『やりがい』を取り戻す。

Before



STEP
01



業務時間の削減

1日30分以上の「余白」を創出。
記録・計画書をAIが瞬時に下書き。
空いた時間で、本来やりたかったケ
アに集中できます。

STEP
02



サービス品質の向上

心に余裕が生まれ、ケアの質が向上。
事務作業から解放されることで、利
用者様一人ひとりと向き合い、寄り
添う時間が増えます。

STEP
03



職員の負担軽減

精神的・肉体的な負担を大幅カット。
終わらない単純・反復作業はAI
にお任せ。「燃え尽き」を防ぎ、離職
率の改善に繋がります。

STEP
04



チーム全体の生産性向上

「言った言わない」のミスが激減。
AIが情報の交通整理役となり、職
種間の連携がスムーズに。ムダなや
り直しが無くなります。

STEP
05



未来に対応できるスキル習得

制度変更に対応できる「強い組織」へ。
どんな報酬改定がきても、自ら課
題を見つけ解決できる「自走型DX
人材」が育ちます。

After



「補助金消化」のための研修は、もう終わりにしませんか？ 必要なのは、現場が自走できる「本物のスキル」です。

A社（補助金活用・eラーニング中心）		B社（補助金活用・座学＋一部実践）		自社：Bridge3（現場実践型・補助金不要）	
料金（1名あたり）	40万円～（高額）	料金	25万円～		10万円（税込）[納得の低価格]
研修内容	一般論・動画視聴が中心	研修内容	AI基礎＋少しの応用事例		即戦力・現場課題解決型ワーク
研修時間	30時間～（時間消化が目的）	研修時間	12時間前後		8時間＋現場活用支援 [濃縮・即実践]
アフターサポート	なし（受講して終わり）	アフターサポート	なし		30日間の徹底伴走サポート付き
最大の特徴	制度・補助金要件に合わせたカリキュラム	最大の特徴	座学中心で現場感が薄い		非エンジニアが自社専用アプリを制作

Bridge3だけの「2大・独自特典」

特典①：30日間の徹底フォロー [安心の伴走支援]



研修はスタート地点。
現場に戻ってからの「これ、どうやるの？」に、
講師がチャットやメールで直接お答えします。
導入の定着率が違います。

特典②：非エンジニアが「自社用アプリ」制作までの道のり [未来へのロードマップ]

